

工場創立趣意書

世の中が日々進歩致しました、例へば現今のごんな繁華な都會でも昔は種油のどをしんあんの、あかりしかありません、でしたが、それが段々進歩發展につれて、石油洋燈になり、遂に電氣に變化してしまひました、只今では如何なる山奥の一軒家でも、昔の様な、あんののわかりわ見たくも見られなくなり、たのです、さて我々の従事して居る、友誼業、その昔諸君も御承知の通り、宮崎友誼會が發明されたものです、それからは既に二百有餘年を數へますが、諸君どうも、友誼業の花類松竹梅、櫻牡丹、紅葉龍虎或、五月纏り等は、その昔も只今も、少しも變りなく、一種の美術として、いつの世になつても、變りなく歡迎されます、然るに美術は世の進歩につれて、行くものですよ、一機織で出来ませんか、或る人は尋ねた事昔ながら金を投じて居るを考へて居る人が少なくありませんが、以前から、ナセン、ご申しませ、極く枚數の少ないものには機械の應用が出来まじよが、どんな機械をもつてしても、我々の手に有る技術を發揮することは決して出来ませぬ、我が國の風俗の改革がありましても、花機織の美術は替はりませぬ斯様な實力ある、結構な、職業に従事する我々には、實に幸福ではありませぬか。

實力ある結構な職業に従事する

我々がなぜ生活の不安を來たすか

之は皆さん社會に働かずして遊んで莫大な金を儲け美食贅澤を盡くし、冬は温泉夏は別荘と、己れのみ楽しみ、人間より金が、尊いと云様な資本主義的の制度と黄金能主義があるからです。

悪い事は、だれも、見知りやす、友誼工場主も、多少それに感化されて立ちたる、我々の職工組合も、未だに否認して居る有様です。

彼等は只だ金を儲けんとしては、己れの事のみ考へて、産業の發達如何等は眼中にない、仕事は、少し、忙はしければ、限りなく工場を擴張して、職工がだらなければ、西東も分らない、百性を、友誼職になれば、金が多くなると云つて様々に誘惑してつれづれ來るのです、此れが爲め遂に金儲け目くらましの悲惨な奴隷生活に陥つて來る徒弟も、此れが爲め、諸君も善く御承知です、此の事は、明治四十二年頃、七十三軒の工場で、或千人以上の職工が、大正四五年頃、工場三十二なり職工は七百人程になりました、然るに廢業された工場主の中には、結構に暮して居るのに、我々職工は、一時に解雇されまして、失業の爲めに生活難に追はれ、身になれない、アノシ難役が致して、ごを分けるを予生命をつないだのはありませんか、斯くの如き悲惨な歴史を今又我々の前に見よとして居るのではありませんか、不安で考へて居られませんか、英國には三百五拾年、昔に布を織る職工の、徒弟の使用人數を制限すると同時に、職人の賃金は、各地方の陪審判事が、公定して、職工の生活の保證とせられたりをでありました、然るに我が國の工場主は産業の事も我々の事もかゝりみず、忙しき時には、間に合せの徒弟を、養成して一時に金を儲けて廢業しよとして居るのです。

不職工が、制限して、養成せぬ。

又其の徒弟を養成して、一方に於ては我々職工の、正しい要求を壓迫し、又其の反面に、於て生産過剰を來たし、問屋の仕替賃金の競争上必然と我々職工手間賃も低落するのであります、前述の様に我々は、實力ある、結構な職業に従事しながら、資本主義的の制度の爲めに絶えず生活の不安を感じ十日も、病氣になれば、其の日が喰ひないのではありませんか、今日迄での、状態は大略前述せました様であります、天は自ら助くるものを助くこと云ふ事に就いて善く考へて自分は、自分で救ふ事を考へねばなりません。

如何にせば今より安心が出来るか

それは、我々組合各自の資本で、工場を作る事であり、之が組合團體の目的です、教育購買救済も必要資金の紛争の際も組合は活動せなければなりません、結局は我々の労働工場を建設して奴隷の鎖りから脱れ肯んなく働くと云ふ事です、賃金の紛争は、水の上に乗るに似て、同じ事でも、景氣の善い時に値上げ、不景氣の時には、値下げられ紛争ある事に我々は、多少の損害を蒙らなければなりません、我々の工場を建設しましたならば、勞働曲の状態も明るくなり、一般の賃金の制度も、平和に組合が協同が出来ますから、自勞資問題も開直に行きます、我が一回賃金の紛争が、四日一日を費すことになりました、之が組合員全般に渡る時には、其の損害で八十名の大工場が建設されるのです、以上の理由で茲に大日本美術友誼工場株式會社を創立し、建設と相談が出来たのであります、株は可成組合員名簿記入者に平等に持たせしめ、組合員に持つべき方法と方法を講じて記名簿に於て決定して賣買の出來ぬ様定款に規定し何事にても株主なる組合員一同の協議の上賛成を得て事業いたしますのであります、其の意を諒察されまして、一同に烈なる努力奮勵され、自勞資助あらん事を願ひます、次會に賛成の上發起人會を開會いたします、發起人は各十名より一名選出の事を願ひます。

大正十年一月拾五日

各工場代表者役員一同

組合員御中

起業目論書

一、資本金 五萬圓

起業計畫ノ大要

第一一回拂込 壹萬貳千五百圓 但シ一株拾貳圓五拾錢

第二一回拂込 ミニテ事業ヲ開始ス

第二回拂込 ム事爲カラシ

一、金四十八百圓 坪六拾圓建 八拾坪

内五拾六坪 工務 但シ貳拾壹名

ムシバ事務所形織糊場

二、金參千圓 借用地代 四百坪 坪拾錢

三、金壹千貳拾圓 板形 但シ一枚 參拾圓

四、金六百元 煙ト形 舟

五、金參百圓 萬力セロノ箱

六、金貳百圓 其他糊場用器

七、金貳百圓 大鎌 三個

八、金參百圓 家具 諸道具

九、金參百圓 糊糊 百三拾

十、金參百圓 井戸 堀費 道具 一式

十一、金參百圓 車一臺 スイイムシガ

十二、金參百圓 登記費 創立費

總計 金壹萬〇八百六拾圓

右固定資本金

壹千六百四十拾圓ヲ以テ事業開始ノ運轉資金トス

總計 壹萬貳千五百圓

収入見積之部

壹年間ノ板上ノ地付十五枚物平均

一、金五萬五千貳百五拾圓

梅市友誼 八千五百〇〇地

但シ什替賃金目下反拾貳圓ヨリ拾五圓迄テ

右什替賃(反拾參圓トス)

拾五枚物地付ばかりとして見積貳拾壹名工場十八名働クトス、

壹ヶ月ノ内ニヶ月ノ不稼働ニテ休業トス、

拾ヶ月就業シ、組合ノ工場設備工務君に勉勵して一日平均、貳拾五枚ト六形スレバ既配ノ通りニナリマス

一年間ノ支出之部

一、金壹萬貳千七百五拾圓 職工ノ年間費

一、金壹萬貳千貳百四拾圓 (但シ一斗平均六圓)

二、金貳千九百七拾八圓四拾錢 糊粉 粉代

三、金貳百〇四圓(一仕掛一斗一升平均)

一、金參千圓 形ホリ代 但シ百柄

二、金六百六拾圓 形紙代三千枚 壹枚貳拾貳錢

三、金壹百圓 模範圖案代

四、金壹百五十圓 形ウレシニガリ

五、金八拾圓 形ウレシ代 一枚五錢平均

六、金壹千貳拾圓 石炭八萬斤

七、金壹千四百拾圓 糊場雜後 三人貳拾圓 一人參拾五圓 ムシバ

八、金壹千八百八拾圓 店員月給 但シ染料合ト配色師百圓

九、金壹千貳百圓 店員五十圓 問屋行七十圓 女中二十圓

十、金壹千貳百圓 形場も見本

十一、金壹千參百圓 全部ノ版代 マカナイ費

十二、金壹千〇八拾圓 職工ニヶ月休業中ノ手當一八二日壹圓

十三、金貳百圓 同業組合費

十四、金壹百圓 版直シ大工手間費

十五、金壹百圓 五色トシ糸

十六、金壹百圓 糊屋印刷

十七、金壹百圓 借用地代

十八、金拾參圓 火災保險安察費諸道具修費諸費

十九、金拾參圓 電費料 夜業四ヶ月分 常夜燈 五圓

二十、金壹百圓 水カンバ

合計 金四萬七千七百五圓五拾錢

純利益

金八千壹百七拾四圓五拾錢 利益六割五分

既記に見積りですから参考迄で記したので

す諸君一同に研究を願ひます